

2021 Race Report

2021 鈴鹿・近畿選手権シリーズ 第2戦

鈴鹿サンデーロードレース JSB1000 鈴鹿 8 耐トライアウトクラス

会場: 三重県 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース(1周 5.821km)

日時: 5月14日(金) 専有走行

5月15日(土) 公式予選

天候: 曇り一時雨 コース: ドライ

5月16日(日) 決勝レース(10周)

天候: 雨 コース: ウェット

※WET レースのため2周減算

ライダー: #28 東村伊佐三 / マシン BMW S1000RR

ライダー: #42 岡村光矩 / マシン BMW S1000RR

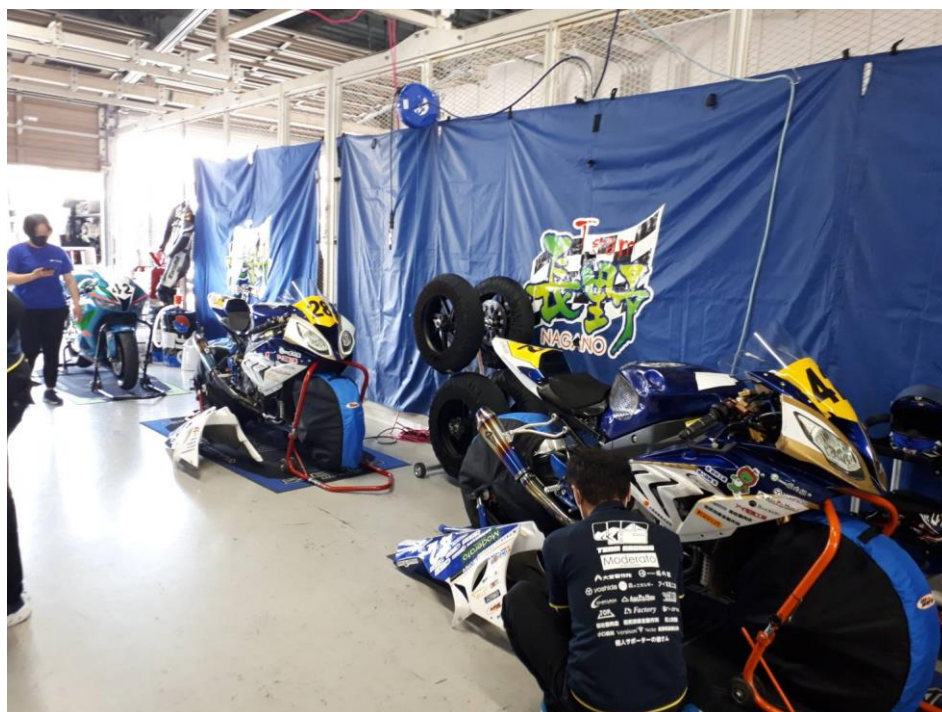
結果: 予選 #28 東村選手 27 台中 5 位(ベストタイム 2'16.813)

予選 #42 岡村選手 27 台中 2 位(ベストタイム 2'15.882)

決勝レース #28 東村選手 4 位入賞

決勝レース #42 岡村選手 3 位表彰台

日頃より信州活性プロジェクト Team 長野にご支援、ご声援をいただきまして、誠にありがとうございます。今大会は『2021 FIM 世界耐久選手権“コカ・コーラ”鈴鹿 8 時間耐久ロードレース 第43回大会』の出場権をかけた 8 耐トライアウトファイナルステージということで、対象レースで鈴鹿 8 耐参戦権を獲得できる最後のチャンスとなります。全日本鈴鹿 2&4 レースのアクシデントにより大破してしまったマシンですが多くの皆様のご協力、ご支援をいただきましてどうにかレースに間に合わせる事が出来ました。信州活性プロジェクト Team 長野は 8 耐トライアウトを通過し鈴鹿 8 耐参戦権を何とかも獲得するため、鈴鹿 8 耐決勝出場予定で 2016 年鈴鹿 8 耐 SST クラス優勝経験者の岡村光矩選手と、東村選手の 2 台で参戦、2021 鈴鹿 8 耐出場権を獲得することが出来ました。



■ 公式予選

金曜日のスポーツ走行では、岡村選手の#42号車にマシントラブルが発生し、現地では対応出来ないことから県外のお店へ奔走するなど、スタッフが団結してマシン整備をして予選を迎えることが出来ました。予選開始直前に雨が落ち始め難しいコンディションでのスタートとなりました。コース上はまだフルウェットになっていないことから、2台ともスリックタイヤでの走行を選択しました。他のチームは、レインタイヤに交換する様子もあったほど雨脚が強くなりましたが、また、すぐに弱まるという強弱を繰り返す天候となりました。東村選手、岡村選手共慎重に周回を重ね、グリップに悪い路面状況でありましたが、東村選手が5番グリッド、岡村選手が2番グリッドを獲得することが出来ました。



■ 決勝レース

当日は朝から雨が降り完全なウェットレースとなりました。当初 12 週の予定をされていた決勝レースですが、ウェット宣言が発出されたことから2周減算となり、10 週のスーパースプリントレースとなりました。東村選手、岡村選手共に良いスタートを切り、序盤では岡村選手が2位を走行する活躍がありました。しかし、転倒のリスクもあることから必要以上にプッシュをせずに中盤以降は、岡村選手が3位、東村選手が4位を走行し、上位7台がトライアウト通過基準ということで、2台ともその基準をクリアする盤石の体制で決勝レースを走り切ることが出来ました。



■東村伊佐三選手コメント

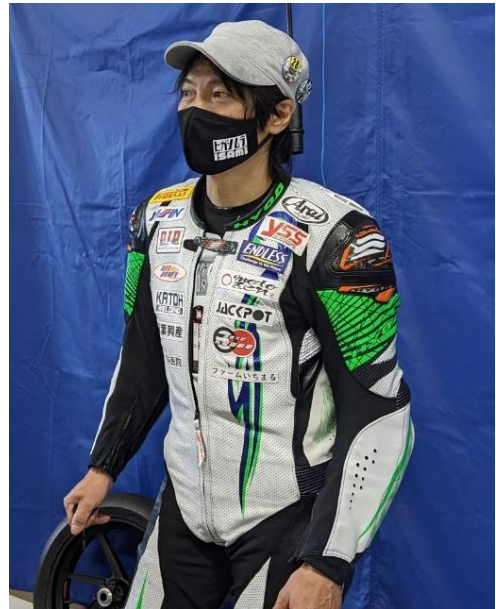
鈴鹿 2&4 での 8 耐トライアウトでアクシデントに巻き込まれリタイヤとなった為、team 長野は 8 耐トライアウトファイナルに岡村選手と 2 台で万全の体制で挑みました。

フリーでは決勝を見据えてのセッティングで進め、予選では小雨が降り出したので早いタイミングでタイムを出しリスクを避ける為、残りを決勝に向けての時間に使いました。

決勝は予想通りの雨でスタート。岡村選手とレース全体のペースを見て周回を重ね、スタート前に考えていた「8 耐出場権利を確実にキープすることを最優先する走り」に切り替えました！耐久レースでは、こうした状況に応じて走り方を変えるのも大切な戦略で、チームで経験できたことは大きな収穫でもあると思います。

今回の 8 耐トライアウトファイナルで team 長野は今できる限りの総力を込めてチーム一丸となり頑張った答えが結果と繋がったのだと思います。今回は出場しなかった櫻山選手も精力的にバックアップしてくれてライダー 3 人で走り切ったレースでもあります！

これからも、応援していただいている皆さんにお力をお借りしながら team の実力を上げて行けるよう頑張っていきますので、引き続きの応援を宜しくお願いいたします。



■岡村光矩選手コメント

昨年限りで自身のレース活動に区切りをつけていたので、今回のレースが久しぶりのレースであり、Team 長野の皆様と合流するのも初めてとなりました。初乗りの BMW&ピレリに、2 年ぶりの鈴鹿サーキットと、自身の中でもとてもハードルの高いレースウィークとなりました。

フリー走行ではトラブルが出てしまい、予選は雨の降る中での微妙なコンディション。とにかく 1 周 1 周を大切にマシンを理解する事に集中し、最後の 1 周で 2 番手にあがる事が出来ました。抱えていたトラブルもチームの皆様が懸命に取り組んで下さり、決勝レースに向けて全てのトラブルが解消されました。

大雨となった決勝レース。自身の経験を信じ、とにかく序盤からペースを上げる事に集中しました。

レース途中で後ろに東村選手が居ってくれたおかげで、安心して前方集団を追うペースまで上げる事が出来ました。レース後半でトップの車両よりも速いペースを刻む事が出来ましたが、今回のレースは 8 耐出場権の獲得が大切なので、気持ちを切り替え 3 番手でチェッカーを受けました。

チームとしてはここから 8 耐に向けてスタートとなります。僕自身も「Team 長野」の一員としての第一歩を歩み始めた実感しております。応援して下さいの皆様と共に、これからも全力で取り組んでまいります。沢山の応援をありがとうございました！



■武居監督コメント

全日本選手権第2戦は転倒に巻き込まれるという、まるで悪夢を見ているようなレースウィークでした。実を言うと、そのレース後から鈴鹿サンデーまでの準備期間中、何度トライアウトを落ちるという悪夢を実際に見たかわかりません。

そのくらい、気分的に追い詰められた2週間でした。気分を新たに挑んだ鈴鹿サンデーロードレース。決勝レースは雨。手に汗握るところか冷や汗をかき続けるレースとなりました。

雨の為10週の戦いとなりましたが、こんなに長い10週のレースは生涯経験したことがなかったかと思います。

結果は岡村選手が3位表彰台、東村選手が4位入賞というチームの歴史上最高位の結果を得ることができ、8耐への挑戦権を無事獲得。これから歩む道に光明の見える結果となりました。

これも「自分たちが出来ることをやろう」と自信を持って挑んでくれた東村選手、岡村選手と、諦めずにマシンを用意し、走れるように手をかけてくれたチームメンバー、そして支えてくださったスポンサー様、個人サポーター皆様のおかげです。

関わってくださったすべての人に感謝します。ありがとうございました。

